

本プログラムの動作推奨環境は以下のとおりです。

本体	IBM PC/AT 互換機 [注：サーバ用のCPU (intel社の Xeon, Itanium, AMD社の AthlonMP) を使用している場合、動作しないことがあります]
メモリ	OSの使用メモリを除いて、1 GB以上
ハードディスク	2 MB以上の空き容量
ディスプレイ	HD (1 k, 1280 × 720) 以上を推奨
OS	Windows 7, 8, 8.1, 10 (本プログラムは32 Bit版)

ASJ RTN-Model 2018 に対してプログラムで対応する機能

(アンダーライン部は ASJ RTN-Model 2013 のプログラムから修正あるいは追加された機能)

項目	対応	未対応
道路構造 (計算方法)	道路一般部：平面, 盛土, 切土, 高架 道路特殊箇所：信号交差点部 (交差する2本の道路について非常走行を仮定して計算する方法, 簡易計算法), トンネル坑口周辺部, 掘削・半地下部 (スリット法, 指向性点音源モデルによる簡易計算法), 高架・平面道路併設部及び複層高架部 (スリット法, 散乱反射法)	インターチェンジ部, 連結部, 信号交差点部 (準精密法)
音源特性	新たな車種分類に対応した舗装種別ごとのパワーレベル (密粒舗装, 排水性舗装 (敷設後の経年変化), 高機能舗装Ⅱ型), 縦断勾配及び指向性に関する補正, 高架構造物音のパワーレベル (走行速度, 橋種別)	加速・減速区間のパワーレベル, ハイブリッド・電気自動車のパワーレベル
回折補正量の 計算方法	音源特性 (密粒舗装, 排水性舗装, 高架構造物音) に応じた回折補正量計算の基本量 (ナイフウェッジ, 直角ウエッジ), 吸音性障壁, 多重遮音壁 (二回回折まで), 張り出し型遮音壁, 先端分岐型遮音壁, 平面道路の低層遮音壁	有限長障壁, 築堤・厚みのある遮音壁, 三重遮音壁, 実製品の音響性能評価値を用いた先端改良型遮音壁, 透過音を考慮した回折補正量
地表面効果による減衰の 計算方法	複合地表面 (法面とその他), 地表面の屈曲, 遮音壁とのカップリング	遮音壁背後の地表面反射
その他の伝搬に関する 計算方法	建物群背後における騒音の実用計算法	空気の音響吸収, 気象の影響, 単独建物の回折補正量計算, 周波数ごとの伝搬計算法, 波動数値解析による騒音の計算方法, 建物群背後における騒音の詳細計算法
出力結果	<ul style="list-style-type: none"> ・時間別予測点別結果リスト ・昼間夜間別断面コンタ図 ・昼間夜間別予測点別結果リスト ・流路別騒音 (直達音・反射音・構造物音) 別車種別寄与レベルリスト ・予測条件リスト出力 ・ユニットパターン図及び数値リスト 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ASJ RTN-Model 2008 プログラムデータとの上位互換性 (2013プログラムのデータは読み込めますが, 一度セーブすると本2018プログラムでのみ読み込み可能となります。) ・平面図及び断面図 (画像ファイル) の読み込み, 表示 ・マウスによる各種座標の位置指定 ・カラーコンタ図の作成 	